2026 年の立冬（りっとう）は 11 月 7 日（土）です。



立冬は二十四節気の第 19 番目で、暦の上で「冬の始まり」を意味します。
期間としては、次の節気である小雪（11 月 22 日）の前日である
11 月 21 日までの 15 日間を指します。
この日から立春（2 月 4 日頃）までが冬とされます。
実際には地域によって気候差がありますが、朝晩の冷え込みが強まり、
紅葉が終わり、木々の葉が落ち始めるなど、冬の訪れを感じる時期です。
また、立冬を迎えると、体調管理や冬支度を意識するタイミングとも
なります。
冬の寒さに備え、温かい食べ物をとる習慣も根付いており、鍋料理や根菜類が好まれます。
また、この時期には木枯らし 1 号が吹く地域もあります。
地域によっては、暖房器具の準備を始める「こたつ開き」の時期でもあります。



毎年秋のはじめに早々と届くのが、富士山の初冠雪のニュース。
2026 年の富士山の初冠雪は、10 月 30 日（金）と発表されました。
今シーズンから、これまでの甲府地方気象台職員による
「目視観測」が廃止され、気象レーダー、気象衛星などのデータを
基にした「解析積雪深」による自動判定へ変更されました。
このニュースを耳にすると、もう富士山では冬がはじまるんだなあ、
これから冬へと季節が進んでいくんだなあと、ちょっとした感慨にひたれます。
雪はどこでも白いですが、富士の斜面を飾る雪は特に白く見えます。

田子の浦に　うち出（い）でてみれば　白妙（しろたへ）の
富士の高嶺（たかね）に雪は降りつつ

詠み人
山部赤人

冬のある日、田子の浦へ出てみた。するとはるかに望む富士の霊峰が、まるで真っ白な布のように
雪をかぶった姿で雄大にそびえている。さらにその頂上には今も雪が降り続いているのだ。
澄み切った空気がピシリッと音を立てそうなくらい寒い冬の日。
息が白くなるそんな日に、海岸べりから富士山を眺めてみましょう。
冬の富士は「白富士」と呼ばれ、まるで１枚の純白のヴェールをふわりと置いたような世界。
そこにしんしんと雪が降っている。想像しただけで鳥肌が立つような、
なんと美しい世界でしょうか。こんな見事な情景をよく描き得たものです。
青い海辺と真っ白な霊峰と、そこに音もなく降り積もる雪。広大で超然とした、
幻想的な絵のようです。